



キャリア教育

校長 五十嵐 圭一



***未来くるワーク体験風景**

今年の2月は、記録的な寒波の襲来もあり、厳しい寒さの日が続きましたが、ようやく明るい陽ざしに春の訪れを感じるようになってきました。保護者、地域の皆様にはお変わりなくお過ごしのことと存じます。

さて、いよいよ3年生は、本日3月1日(木)、県公立高校の学力検査に臨みます。明日2日(金)には、一部の高校において、面接や実技検査が実施されます。本年度の県内の中学校の卒業予定者は、64,356人。この内、2月26日現在、県内の全日制の県公立高校を希望する生徒は、44,503人。全日制の県公立高校の募集人員が38,320人

(転編入入学者を除く)ですので、倍率は、1.16倍となり、前年度より0.03ポイント下がりました。また、入学許可候補者の発表、いわゆる合格発表は9日(金)午前9時、それぞれの高校で行われます。受検生の健闘を祈りたいと思います。

ところで、近年、教育界では、キャリア教育の充実が強く叫ばれています。キャリア教育とは、生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる資質や能力を育てる教育のことです。背景には、少子高齢化による就学・就業構造の変化や、技術革新とグローバル化の進展に伴う産業構造や社会システムの変化により、加速度的に変化していく社会への対応が求められている現実があります。オックスフォード大学のマイケル・A・オズボーン博士の論文「未来の雇用」によれば、10年後には、分析した702の職種のうち実に47%の仕事が、AIなどのコンピュータ技術により自動化され、雇用が失われると予測されています。また、今後、我が国の少子高齢化はさらに進行し、2030年には、65歳以上の高齢者の割合は総人口の約3割に達する一方、生産年齢人口は総人口の約58%にまで減少すると見込まれています。将来の変化を予想することはますます難しい時代になっていきそうです。明日を担う子どもたちは、真の意味で自立した人間として主体的に判断し、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造する力を身に付けていくことが必要となってきます。

学校教育においても、このような視点に立ち、生徒一人ひとりが自らの人生を自らの力で切り拓いていけるようキャリア教育の充実を図る必要があります。本校においては、キャリア教育の一環として、未来くるワーク体験や進路説明会、未来くる先生講演会など、職業や進路への理解を深める様々な体験活動を実施し、一人ひとりの生徒に適した進路選択の実現を目指しています。今後も、進路決定に偏った指導、いわゆる出口指導とならぬよう取り組んでまいります。

最後になりましたが、この1年間、保護者、地域の皆様には、本校の教育活動に格段のご理解・ご協力を賜りましたこと心から感謝申し上げます。昨年11月に実施した学校評価に関するアンケートの集計結果を掲載しました。ご協力ありがとうございました。今後も、地域に根差し、保護者、地域の方々から信頼される学校づくりを目指して教職員一丸となり取り組んでまいりますので、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。